

月刊東乳商

第514号

東京都牛乳商業組合 平成21年11月20日
●URL <http://www.tokyo-gyunyuya.com> E-mail tonyusho@forest.ocn.ne.jp
毎月20日発行・定価1部150円 1年1800円(郵便料共)(昭和47年2月22日第3種郵便物認可)

発行所
東京都牛乳商業組合
代表者 渡邊佳三郎
東京都千代田区神田紺屋町29
神田ISビル 〒101-0035
☎(5295)3721(代表)
FAX(5295)3724

乳製品販売顧客管理コンピュータシステム

市乳くん

宅配/卸・ハンディ・本支店間・LAN・EOS・顧客管理

【資料請求はこちらから】 >>>> 0120-5959-92
株式会社オシカワシステム <http://www.oskw.jp>

21年度研修会

11月21日の城南・

山手ブロックからスタート

21年度の研修会が今月21日の城南・山手ブロック(玉川区民会館)からスタートする。今年度は現在の販売店の置かれている厳しい状況を打破するためのヒントを得るため、佐藤卓先生に「不景気を味方につけよう!我ら健康宅配業」の解説と新たな市場開拓「〜というテーマで講演をしていただき、またブロックによっては佐藤先生

アンケートを掲載します。研修会に参加されなかった組合員のみなさんもお答えいただき、事務局宛に送付いただければ集計に加えますので、ご協力よろしくお願ひします。

【東乳商組合員アンケート】

- 最近の消費者の牛乳離れ、スーパー安売り等により、落本の問題が当組合に所属する販売店各位にとって大きな問題となっております。今後、組合として落本を最小限に抑えるための対策を検討、実施していくために、組合員のみならず、ご協力よろしくお願ひ致します。
- 落本の原因(番号を で囲んで下さい。複数回答可)
- 1 1本の量が多い
 - 2 他の飲料を飲むようになったため
 - 3 医者の指示
 - 4 ダイエット等の健康上の理由
 - 5 料金が安い
 - 6 契約期間が満了したから
 - 7 転居
 - 8 気候の変わり目に合わせて
 - 9 家庭の事情(留守がち等)
 - 10 牛乳に魅力を感じなくなった(味等)
 - 11 健康食品としての効能を感じられなくなった
 - 12 他のメーカーに切り替えた
 - 13 販売店の事情
 - 14 その他
- 落本の原因(お客様が宅配停止を決めた理由)と思われるものを、選択肢から選び、その番号をお答え下さい。(複数回答可)

東京産の牛の品評会開催される

第29回東京都乳牛共進会 秋のわくわくモーモーshow

10月24日同時開催



十月二十四日、青梅市の東京都農林総合研究センターで、東京都酪農業協同組合が主催する「東京都乳牛共進会」と東京都農林水産振興財団主催の「秋のわくわくモーモーshow」が同時開催され、近隣のたくさんの方の家族連れ

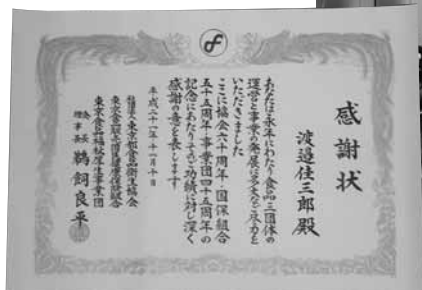


が会場を訪れにぎわった。共進会は乳用牛の資質改良と能力の向上を図るとともに、東京都の酪農についての理解、牛乳乳製品の消費拡大を目的に開催されるもので今回が二十九回目となる。主催者の都酪協平野正延組合長が開会宣言を行い、品評会に入った。品評会では都内多摩地区から集まった乳牛45頭が参加、年齢順に七部門に分かれ入賞を競った。

秋のわくわくモーモーshow会場では、乳搾り体験、ひよこや子豚などのミニ動物園、ソルゴー迷路、骨密度測定、お絵かきコンクール、酪農家が出品した畜産物の展示即売などが行われ親子連れに好評だった。また「東京牛乳」が無料配付され、お昼時には牛乳入りカレーライスが来場者に振舞われた。

渡邊理事長、 東京都食品衛生協会より 表彰される

十一月十日、京王プラザホテルにて「社団法人東京都食品衛生協会創立六十周年、東京食品販売国民健康保険組合創立五十五周年、東京食品福祉厚生事業団創立四十五周年」記念式典および祝賀会が開催された。この席上で食衛生功労者二六二名を代表して東乳商渡邊理事長が感謝状を贈呈された。



東乳商 2009年 理事支部長 新春のつどい

開催日の予定

日時
平成22年1月22日(金曜日)

場所
秋葉原「肉の万世」

理事・支部長への開催ご案内状は12月中旬に郵送します。お近くの販売店を誘いあってご参加下さい。

改善協版

優良事例発表会事業

関東甲信越ブロック予備審査実施

去る十月九日(金)十五時から御茶ノ水ホテルジュラクに於いて平成二十一年度の優良事例発表会事業関東甲信越ブロック予備審査が行われた。出席は佐藤卓先生、村田ブロック長以下各県流改協会長等計十一名。

参加店は次の八店であった。茨城県 森永牛乳常陸大宮販

売店、栃木県 森永牛乳岩船、時田販売店、群馬県(株) OMD(明治)、埼玉県 明治牛乳浅見販売店、東京都 森永牛乳大泉通り宅配センター、神奈川県 くりはら牛乳店(森永)、山梨県 内藤牛乳店(メグミルク)、長野県 ポケット トミルク(協同)、新潟県 森永越後ミルクセンターの十

店。審査は二時間にわたり慎重に行われて、次の三店が予備審査を通過して十一月九日の本審査に進まれた。埼玉県 明治牛乳浅見販売店、東京都 森永牛乳大泉通り宅配センター、神奈川県 くりはら牛乳店(森永)。

このうち佐藤先生による訪店調査が行われて、その調査結果をもとに本審査が行われ、これが二店に絞られて全国審査に臨まれることになる。今年度より参加資格が変更になり売り上げではなく、三年連続で粗利益が伸びている事が必要資格でありこれが各地区難題であったが、この三店は売上粗利益ともにこれをクリアしており、これが称賛された。

二十一年度販売拡張方策検討会 事業(中央検討会)実施

二十一年十月十三日(火)十三時より十七時まで東京カインパレスに於いて、牛乳販売店の宅配機能の高度化を実現するために考え得るあらゆる販売拡張方策の検討を行い、その結果より一層の地域顧客からの支持獲得を通して販売店経営の基盤強化支援と飲用牛乳の消費拡大を目指すというのが目的である。

参加は全国牛乳流通改善協会役員以下佐藤卓先生他が講師で、参加者は各県代表者一名で、東京は江東区越中島・岩間治夫氏にご協力を受けて参加いただいた。テーマは我が店のIT活用報告とパナール

デスカッション、宅配管理ソフトと電話の連動システムの会場体験等々この検討会の結果のまとめとして、「我が販売店のIT活用方法&これなら使える牛乳販売店のパソコンソフト」という小冊子が全改協から発行されている。なおこの中央会議を受け



て地域会議が来年二月に予定されているが、都会協では昨年度に実施しており今年度の参加はない。



丈夫な骨をつくる ライフスタイルとは

～全国骨密度調査等からみる、牛乳摂取と骨量の関係～

どのようなライフスタイルが丈夫な骨を作り、骨量を保ち続けられるか。身体状況とライフスタイルの関係を探るために長年研究を続ける女子栄養大学栄養生理学研究室教授の上西一弘先生に、中学・高校生を対象に行われた「中学生・高校生のライフスタイルと身体状況に関する縦断研究」なラゲで開催されたメディアミックスセミナーで話されました。その概要を紹介いたします。

《中学生・高校生は骨量が著しく増加する大切な時期です》

私は「中学生・高校生のライフスタイルと身体状況に関する縦断研究」、「全国骨密度調査」など、骨とライフスタイルの関係について調査研究を重ねています。

中学生・高校生のライフスタイルと身体状況に関する縦断研究は、二〇〇〇年から二〇〇八年にかけて行われたもので、中学一年生の四月から高校三年生の四月まで五年間にわたり、同じ生徒を追いかけて調査したものです。対象校は東京都内の私立の中高一貫校で全校生徒数は約二千名に牛乳を飲む習慣はありません。調査によると、男子は中学生から高校一年生にかけて骨量増加が著しく、高校二年生

で成人の平均値を上回ります。一方、女子は中学三年生で成人の値に達しており、小学生高学年から中学生にかけての時期に骨量が増加すると推測されます。

牛乳はカルシウムの供給源として非常に有用な食品であるにもかかわらず、男子で一日二百ミリリットル以上飲んでいる人は半数強であり、女子では「ほとんど飲まない」「百ミリリットル未満」が半数以上を占めています。男子も女子も牛乳をたくさん飲む生徒ほど、カルシウムがしっかりと摂取できています。ただ牛乳を二百ミリリットル以上飲んでいないグループでも、男女ともにカルシウム摂取量の平均は六百ミリグラムでほとんど飲まないグループでは二百八十ミリグラム。これを来春導入される食事摂取基準二〇一〇年版のカルシウムの数値に照らし合わせてみると、いずれも推奨量(男子高校生八百ミリグラム、女子高校生六百五十ミリグラム)には達しておらず、全体的にカルシウム摂取量が少ないといえます。

牛乳摂取量と骨量の関係をみていくと、牛乳摂取量の少ない生徒よりも多い生徒の方が骨量が高くなっています。また、成長期の骨量は運動の影響を強く受けますので、クラブ活動などで運動習慣があり運動量の多い生徒のほうが骨量が高くなります。

注目：女子で牛乳摂取量の多いグループの方が体脂肪率が低いこと。つまり、牛乳を「飲むこと」「太る」ではないのです。

なお、教育現場での骨量測定や食育などは、対象者の「骨の健康」に対する意識を高め生活習慣に反映されるためか骨量増加に効果的であるようです。

《成人期以降は牛乳・乳製品の摂取と運動で骨量を維持しましょう》

次に成人期以降のライフスタイルと骨量の関係についてみていきましょう。全国骨密度調査は二〇〇五年から二〇〇八年までの四年間で四十四万人の協力を得て行われたものです。今回は二〇〇八年のデータから検討しました。

中学生・高校生と同様に、牛乳をたくさん飲んでいない人の方がカルシウムの摂取量は多くなっています。それに加え、一日三回牛乳・乳製品を摂取しようという「食生活改善運動」31-A Day を実施している人のカルシウム摂取量の平均は千三百ミリグラムを超えており、牛乳・乳製品をとるとはカルシウムの摂取量を増やすのに効果的であることがわかります。

一日三食中で欠食のある人は、カルシウム摂取量が少なくなっています。これは、カルシウムが間食などでは補いきれない栄養素だからといえます。

骨密度測定の実験の有無と牛乳摂取量の調査では、骨密度を測った経験のある人の方が少ない人よりも牛乳摂取量が多く、「31-A Day」の実施率も高いという結果が得られました。骨密度の測定がカルシウム摂取、牛乳・乳製品の摂取の啓発へとつながっているようです。

骨量の調査では、牛乳・乳製品の摂取量が多い人、運動

をしている人ほど骨量が高いことがわかりました。また、女性の場合、五十歳以上の骨折の経験者は骨量が低いことが多く、これは骨粗鬆症による骨折と考えられます。

《ライフスタイルを見直すことで骨量は増やしたり、維持したりできます！》

これらのことから、牛乳・乳製品によるカルシウム摂取と運動が、骨量の増減に深くかかわっていることがわかります。そのほかに不足食や骨密度測定経験者の有無なども含め、ライフスタイルが骨量に与えています。

また、近年日本では若い女性の痩せすぎが非常に問題になっていきます。成長期を過ぎると骨の量は増えませんが、この時期の低体重は、高齢者になった時の骨粗鬆症や骨折のリスクにつながります。実際にBMI値が低い人ほど骨量は少ないという調査結果も出ています。

特に大学生を含む二十代、三十代は牛乳摂取量が少ない人、運動習慣がない人、欠食が多い人、痩せている人の割合が多く、これらは骨の健康にとって非常に悪いライフスタイルだといえます。

若い時であれば、ライフスタイルを変えることによって骨量を増やすことができますし成人期以降は丈夫な骨を維持することが出来ます。つまりライフスタイルを見直すことで骨量の改善もはかれるのです。

牛乳・乳製品は、調理をしなくても手軽にカルシウムを摂取することができる優良な食品。牛乳・乳製品を冷蔵庫に常備しておくことで、カルシウム摂取の機会を増やしていくことが望ましいといえます。

(「ミルク資料より」)